

和名：イモゾウムシ

学名：*Euscepes postfasciatus* (Fairmaire)

英名：West Indian sweet potato weevil



図 イモゾウムシ（成虫）

分布

中華人民共和国、アメリカ合衆国、西インド諸島、ブラジル、ベネズエラ、ペルー、ハワイ諸島等（我が国では宝島（鹿児島県トカラ列島）以南の南西諸島、小笠原諸島（東京都））

寄主植物

アサガオ属植物、サツマイモ属植物、ヒルガオ属植物の生茎葉及び生塊根等の地下部

形態

成虫は体長約3.5mm、ずんぐりした卵形で全体が暗褐色～赤褐色。口吻は体の下面に湾曲し、背面からは見えない。体は短い直立した灰褐色の鱗毛と剛毛で密に覆われる。翅端に近いところに波形の灰白色の横帯がある。脛節は先端にやや強固な鉤がある。卵は直径0.3～0.4mmで、ほぼ球形。初め乳白色で、後に灰黄色。老熟幼虫は体長約6.0mmで体色は乳白色。体は腹側に湾曲しアリモドキゾウムシの幼虫と酷似する。蛹は体長約4.5mm。体色は初め乳白色で、後に淡褐色。

生態

南西諸島では1年間に4～5世代をくり返し、休眠を行わないため年間を通じてあらゆる態が見られる。成虫の産卵前期間は9～13日で、4～6ヶ月生存して産卵を続ける。産卵に際しては塊根や茎の表面に小孔をあけ、通常1粒ずつ産下し、灰黒色の糞栓で卵と孔口を覆う。成虫は発達した後翅を持つが飛翔しない。卵は約7日でふ化し塊根や茎の中に食入して糞を排出しながら曲がりくねった孔道をつくる。幼虫は老熟すると孔道の末端に少し大きな室をつくって蛹になる。幼虫期間は約25日、蛹期間は約7日である。

被害

成虫は茎や塊根をかじって加害するが、被害は主として幼虫による食害である。主茎が幼虫に食害された場合は、その部分の表皮がくぼんでしわ状になり、褐色～黒色になる。このため、しばしば茎葉に奇形を生じる。塊根は内部に不規則に蛇行した孔道が走り、孔道とその周辺は黒変する。本虫が寄生した塊根は、苦みと悪臭を生じ、食用はもちろんのこと家畜の飼料にもならない。